

2023年度日本化学連合事業報告

日本化学連合正会員

化学工学会、クロマトグラフィー科学会、高分子学会、触媒学会、石油学会、繊維学会、日本エネルギー学会、日本化学会、日本セラミックス協会、日本ゼオライト学会、日本地球化学会、日本膜学会、日本薬学会

化学系学協会連絡会会員

日本化学連合正会員（13学協会）

火薬学会、錯体化学会、DVX α 研究協会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本表面真空学会、日本分析化学会、日本放射化学会、日本放射線化学会、表面技術協会、粉体粉末冶金協会

2023年度日本化学連合役員

氏名	役職	選出学協会	委員会など
岩澤 康裕	会長	日本化学会	
金井 求	副会長	日本薬学会	企画委員長/政策提言・情報発信推進WG
関 隆広	副会長	高分子学会	運営委員長/政策提言・情報発信推進WG
辻 佳子	副会長	化学工学会	将来構想委員長/政策提言・情報発信推進WG
渡部 恭吉	常務理事		運営委員/企画委員/将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
一國 伸之	理事	触媒学会	運営委員
奧林 里子	理事	繊維学会	企画委員
鍵 裕之	理事	日本地球化学会	将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
窪田 好浩	理事	日本ゼオライト学会	企画委員
幸塚 広光	理事	日本セラミックス協会	将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
後藤 雅宏	理事	化学工学会	運営委員/企画委員
澤本 光男	理事	日本化学会	運営委員
鈴木 慎一	理事	日本化学会	将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
関根 泰	理事	石油学会	運営委員/政策提言・情報発信推進WG委員長
長崎 幸夫	理事	高分子学会	企画委員/将来構想委員
浜瀬 健司	理事	クロマトグラフィー科学会	将来構想委員
宮田 隆志	理事	日本膜学会	企画委員
吉松賢太郎	理事	日本薬学会	将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
大塚 浩二	監事	クロマトグラフィー科学会	
平尾 雅彦	監事	化学工学会	

2023年度活動報告

- 運営委員会：
化学コミュニケーション賞2023の実施
学協会の活動を顕彰するための学協会優秀アクティブ賞（仮称）の検討を行っている。細部のことは今後。
- 企画委員会：2023年度第1回および第17回日本化学連合シンポジウムの実施
- 将来構想委員会：日本化学連合のあり方と将来像についての検討
- 政策提言・情報発信推進ワーキンググループ：「環太平洋国際化学フェスタ（仮称）」開催について再検討
- 政策提言発出
- 化学系学協会連絡会：定例会議の実施（2回）
- 功労賞選考委員会：受賞候補者の選考
- 2023年度日本化学連合 会長・事務局長連絡会の開催
- 決算

運営委員会報告

1) 化学コミュニケーション賞2023

当連合の設立趣旨の一つである「化学関係団体が賛同して開催する事業」を強化・発展させるために、化学と化学技術に関係する啓発活動や情報発信を行うことによって、化学教育、化学産業の育成、および発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度

主催：日本化学連合

共催：化学工業日報社、化学情報協会

後援：科学技術振興機構、新化学技術推進協会、

日本サイエンスコミュニケーション協会、化学同人

協力：Chem-Station

2023年10月1日に募集を開始し、2023年12月10日に締め切り。応募案件について、あらかじめ選任された選考委員により書面評価を行ったうえで、2024年1月11日に開催された最終選考委員会において化学コミュニケーション賞3件と審査員特別賞2件を選定した。

表彰式は、2024年3月5日（火）13:00～13:50にオンラインで開催した。

化学コミュニケーション賞2023

- 1) 「Three Twentysix – 化学を世界に説明する」・・・Andrew Robertson
・Jirapathiran Hiranpakorn・Maria Sucianto（九州大学）
- 2) 「幅広い層に魅力的な最先端分子科学の普及」・・・佐藤宗太（東京大学）
- 3) 「化学系バーチャルシンポジウムの開拓と実践」・・・山口潤一郎（早稲田大学）
・生長幸之助（産業技術総合研究所）・宮田潔志（九州大学）

化学コミュニケーション賞2023 審査員特別賞

- 1) 「孤育てから、みんなで育てる“Co SODATE”へ！ 参加型企画運営による親子の豊かな場・時間づくり」・・・WAKUWAKUのタネ（団体）
- 2) 「最先端科学技術を小中高校生に伝える活動」・・・鬼村謙二郎（山口大学）

2) 新たな顕彰制度の検討

学協会の活動を顕彰するための学協会優秀アクティブ賞（仮称）の検討を行っている。細部のことは今後。

企画委員会報告

2023年度は2件のシンポジウムを企画・実施した。

2023年度第1回日本化学連合シンポジウム

「ヒューメインな化学 ～感覚の世界に化学はどう挑むか～」

人間の幸福感は、五感に依るところが大きい。本シンポジウムでは、人間の幸福感の礎の一つとなる感覚の領域に対して、化学がどのように切り込んでいけるかについて議論した。

開催日時：2024年1月22日（月） 13:00～17:35

開催方式：オンライン開催、参加費：一般：5,000円、学生：2,000円

- 1) 「音や光による有機分子の状態や反応の制御」津田 明彦（神戸大学）
- 2) 「視覚科学：化学産業への展望」山本 洋紀（京都大学）
- 3) 「匂い感覚と健康とwell-being」東原 和成（東京大学）
- 4) 「嗅覚センサの研究・開発・実証・実装」吉川 元起（物質・材料研究機構）
- 5) 「コグネティクス+（プラス）で挑む触感と身体の科学」金山 範明（産総研）
- 6) 「味を化学で可視化する」都甲 潔（九州大学）

参加者 一般33名、学生2名

企画委員会報告2

第17回 日本化学連合シンポジウム「防災と化学」

本シンポジウムでは防災のベースとなる化学を、素材・材料、安全管理、疾患治療などの観点から、各分野を代表する講師の先生方に講演いただき、リスクマネジメントの将来を見据えながら、化学が防災に対してどのような貢献ができるのかを広い視野で議論した。

開催日時：2024年3月5日（火） 14：00～17：40

開催方式：オンライン開催・参加費無料

- 1) 「防火服という被服”システム”を学際的アプローチで考えてみる」若月 薫（信州大学）
- 2) 「化学物質・化学反応プロセスのリスクと安全な取扱い」熊崎美枝子（横浜国立大学）
- 3) 「レカネマブの早期アルツハイマー病を対象とした開発」今枝厚貴（エーザイ株式会社）
- 4) 「防災に役立つ高分子」伊藤耕三（東京大学）

参加者は、75名。

将来構想委員会報告

2023年11月16日（木）開催

会長から「日本化学連合の将来像はどうあるべきか議論して欲しい」との指示に基づき、化学連合の事業として将来の柱となる事業について検討を行った。今後引き続き検討を行うことにした。

事業の例

- ・プロジェクトの立ち上げ
- ・一般向けシンポジウムの開催とシリーズ化
- ・高校の先生などに対する講習会の開催など

主体となる事業を決め、アクションすれば大きな力となり、化学連合があってよかったということになる。何かアクションすることが必要である。

政策提言・情報発信推進WG報告

2023年12月11日（月）開催

2022年度第1回WGにおいて、東アジア・東南アジアにおける国際的な協力は、先方のアグレッシブな学生の姿勢を感じることができ、また、優秀なアジアの学生や企業が参加する産学連携の視点でアジアを取込んだ場の提供は日本の企業にもメリットがあるので、「環太平洋国際化学フェスタ（仮称）」開催について議論した。しかし、現状は障害が大きく、社会状況も変わっているので、国際化学フェスタの開催の有無、開催する場合の有効な手段などについて、再度協議した。

協議の結果、以下の意見が出された。

- Pacificchemの枠の中にシンポジウムとして産学連携・交流という内容のものを立てることは一つの案。直近のPacificchemは赤字、基金を取り崩して赤字補てん。運営としての難しさを考慮する必要あり。

- ここ2年で中国を含めた状況が大きく変化。Sustainableに「新たな枠組み」を継続するのは難しいことかもしれない。

- Pacificchemはあまり学生がいかないのでは、同時開催は難しいか。

- AISTでの情報流出などをふまえて一部の国との国際交流が難しくなりつつある。とくに産学連携というキーワードを考えると当分は無理ではないかという印象。国際の場における「産」とは誰かも考える必要あり。

- いったん立ち止まって考え直しても良いのではないか？

全体としての結論としては、提案撤回に近い停止、状況を見ながら考えていきたい。今後、これならやるべきである、というアイデアを本WGから提案できれば、是非まとめていきたい。

政策提言発出

1) 「学協会に係る法人制度に対する提言書」（2022年12月）

- 内閣府公益認定等委員会事務局宛て
- 日本化学連合作成
- 日本物理学会、応用物理学会、生物科学学会連合、日本地球惑星科学連合と共同
- 内容：提言Ⅱ 収支相償基準の弾力的な運用を認める事
提言Ⅲ 遊休財産の保有制限を緩和する事

2) 「日本学術会議法の性急な改正について再考を求める」（2023年1月）

- 内閣府宛て
- 日本物理学会作成
- 日本天文学会、日本数学会、日本地球惑星科学連合、生物科学学会連合と共同
- 日本化学連合は会長個人名で参加

3) 「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」（検討中）

- 内閣総理大臣、文部科学大臣、財務大臣、経産省大臣、厚生労働大臣など宛
- 生物科学学会連合が作成
- 日本化学連合は会長個人名で参加予定
- 生物科学学会連合の依頼を受け、各会員学協会に対して、要望書への会長名の記載や署名運動についての意向を生物科学学会連合へ連絡することを要請

化学系学協会連絡会報告

化学系学協会の幅広いネットワークが必要な時代となっている現状を考え、化学系各学協会事務局の連携、情報交流などを目的として、「化学系学協会連絡会」を2018年に発足させた。

本連絡会は、政府政策等の学協会への情報提供、学協会のプラットフォーム整備のための情報共有、学協会の連携強化などを行い、日本化学連合の会員学会のみならず、多くの化学系学協会にご参加頂くことにより、日本の学協会の発展に寄与すべく活動している。

2023年度の化学系学協会連絡会は、正会員13学協会、連絡会会員10学協会およびオブザーバー4学協会が参加し、連絡会幹事会は常任幹事3名と幹事2名で運営を行った。

本年度は幹事会を1回、定例会議を2回開催した。

参加学協会：

日本化学連合参画13学協会、火薬学会、錯体化学会、DVX α 研究協会、

日本ケミカルバイオロジー学会、日本表面真空学会、日本放射化学会、日本放射線化学会、表面技術協会、粉体粉末冶金協会、日本分析化学会

オブザーバー参加学協会：

安全工学会、資源・素材学会、日本農芸化学会、有機合成化学協会

化学系学協会連絡会報告2

化学系学協会連絡会 2023年度第1回定例会議

日 時：2024年2月1日(木) 13:00~15:00

会 場：オンライン開催、参加費：無料、参加者：20名

テーマ：「学会業務の効率化と財務改善対策」

個人および法人会員減少の影響で、会費収入が減少しているため、多くの学協会では業務委託による学会業務の効率化や様々な学会財務改善対策を模索していると考えらる。そこで、第1回定例会議では、実際にこの課題に取り組んでいる事例を紹介いただき共有した。

化学系学協会連絡会 2023年度第2回定例会議

日 時：2024年3月1日(金) 15:00~16:50

会 場：オンライン開催、参加費：無料、参加者：19名(各学協会事務局にも配信)

テーマ：「生成AIについての講演会—生成AIの基礎と事務局業務効率化へのヒント—」

生成AIには、テキスト生成や画像生成、動画生成、音声生成などさまざまな種類がある。それぞれの性質に適した活用方法を選択することで、これまで人間の手で行っていた作業を大幅に効率化したり、思いつかなかったアイデアを形にしたりすることが可能になる。

第2回定例会議では、外部から講師をお招きし、「生成AIの基礎と事務局業務効率化の事例紹介」についてご講演いただいた。

功労賞受賞者受賞候補者の選考

「功労賞」は2021年度に新設された。2023年度の功労賞候補者の推薦を2023年12月28日締切で依頼したところ、2名の推薦があり、1名は都合により辞退した。

2024年2月2日に会長、副会長、常務理事による選考委員会を開催し、日本化学連合功労賞選考規程に従い、選考を行った。

審議の結果、佐藤晴基氏（高分子学会 常務理事・事務局長）を全員一致で受賞候補者とし、理事会での承認を得て受賞者を決定した。

表彰式は社員総会時に執り行い、表彰状と副賞を授与する予定である。

2023年度日本化学連合 会長・事務局長連絡会

日時：2024年4月8日（月）15:00-17:00

開催方法：オンライン（ZOOM）

議事：

- (1) 日本化学連合の活動報告
- (2) 正会員各学協会が抱える問題・課題と取組みを含む 各学協会の現状と活動方針
（各学協会から）
- (3) 化学連合への意見・要望（各学協会から）
 - ・ 共通課題の情報共有
 - ・ 他学会との連携のハブ機能
 - ・ その他
- (4) 化学系学協会の連合体としての化学連合からの政策提言発出の要望（各学協会から）
 - ・ 現行の公益法人制度の在り方見直しと運用改善などについて
 - ・ 大学の運営費交付金の増額
 - ・ 博士人材のキャリアパス拡充、その他
- (5) その他

会長・事務局長連絡会出席者

学協会	会長	事務局長
化学工学会	松方正彦	三谷 誠
クロマトグラフィー科学会	浜瀬健司	北川文彦
高分子学会	佐藤晴基（代理）	佐藤晴基
触媒学会	薩摩 篤	市川真一郎
石油学会	村松淳司	松岡 徹
繊維学会	大田康雄	山本恵美
日本エネルギー学会	成瀬一郎	—
日本化学会	菅 裕明	鈴木慎一
日本ゼオライト学会	武脇 隆彦	—
日本セラミックス協会	村田恒夫	志村 悟
日本地球化学会	高橋嘉夫	山口瑛子
日本膜学会	渡部恭吉（代理）	渡部恭吉
日本薬学会	—	—

日本化学連合：岩澤康裕（会長）、金井 求（副会長）、関 隆広（副会長）、鈴木慎一（理事）*、浜瀬健司（理事）*、渡部恭吉（常務理事）*

*：正会員学協会の会長（代理）または事務局長を兼ねる。

日本セラミックス協会：黒木有一（専務理事） 他1名

一般社団法人日本化学連合
2024 年度事業計画(案)

1. 活動基本方針

日本化学連合は、設立の趣旨を踏まえ、化学関連学協会の幅広い連合体として、化学と化学技術の発展に貢献するとともに、日本化学連合および化学技術関連学術団体の強化と存在意義を高めることに努める。そのために、下記の事項を実施する。また、昨年度に引き続き、重要課題について機動的に対応する。なお、正会員数と連絡会会員数の増加を図るために、会員学協会にとって本年度以上の魅力ある事業を行うとともに、学協会のプラットフォーム整備のための情報共有、学協会の連携強化などを行い、積極的に入会の勧誘を進める必要がある。

- 1) 化学と化学技術に関する幅広い連合組織であることを活かした活動
- 2) 化学関連学協会との連携事業・業務の実行
- 3) 事業や組織のあり方を含め、日本化学連合の将来像を継続論議
- 4) 政策提言・情報発信の実行
- 5) 会員数と会費収入の増強
- 6) 事務組織の強化

2. 活動計画

- 1) 正会員学協会の交流と化学連合のあり方に関する議論の継続（定款第3条8号）
本連合の化学関連学協会の連合体としての役目とあり方、将来像に関する議論。
- 2) 主催シンポジウムおよび正会員学協会との共催セッション等の開催（定款第3条3号）
1～2回のシンポジウム主催
学協会との共催・協賛シンポジウム・セッションの実施。
- 3) 化学コミュニケーション賞2024の実施（定款第3条8号）
社会のなかの化学と化学技術および社会のための化学と化学技術として内外に対する化学コミュニケーション力の強化（表彰、シンポジウム、化学情報提供など）。
- 4) 正会員学協会と連携した化学と化学技術に関する政策提言・情報発信などの事業の実施（定款第3条2号）
化学・化学技術の将来ビジョンに関する意見交換・情報発信の場を提供。
正会員学協会の行事予定、刊行ジャーナルへのリンクのHPへの掲載
- 5) 化学系学協会連絡会定例会議の開催(年2回)
- 6) 正会員会長・事務局長連絡会の開催(年1回)
- 7) 総会、理事会、委員会などの開催
社員総会、理事会、運営委員会、企画委員会、将来構想委員会、政策提言・情報発信推進WGなどを開催する。活動基本方針に沿い、必要に応じWG等を設け実務に対応する。
- 8) 正会員である学協会あるいはその所属する組織・グループ等の活動を表彰する制度（学協会優秀アクティビティ賞（仮称））の新設の検討

9 会議

定時社員総会	1回
通常理事会	4回
運営委員会	2回
企画委員会	2回
将来構想委員会	2回
（将来構想委員会と政策提言・情報発信WGの合同委員会を含む）	
政策提言・情報発信推進WG	2回
（将来構想委員会と政策提言・情報発信WGの合同委員会を含む）	
正会員会長・事務局長連絡会	1回
化学コミュニケーション賞最終選考委員会	1回
化学系学協会連絡会幹事会	2回
化学系学協会連絡会定例会議	2回
監査会	1回

以上

一般社団法人日本化学連合
2024年度予算
(2024年4月1日より2025年3月31日まで)
(単位:円)

項目	科目	2024年度 予算	2023年度 決算	差異	備考
収入	正会員会費	3,306,300	3,317,900	-11,600	
	賛助会員会費	170,000	170,000	0	
	連絡会費	100,000	100,000	0	
	講演会	250,000	179,000	71,000	
	補助金	1,000,000	1,000,000	0	
	利息	0	70	-70	
	当期収入合計(A)	4,826,300	4,766,970	59,330	
	前期繰越金	6,612,745	6,594,661	18,084	
	収入合計(B)	11,439,045	11,361,631	77,414	
支出	会議費	10,000	0	10,000	会議はオンライン開催
	コミュニケーション賞	800,000	793,821	6,179	
	シンポジウム	200,000	160,197	39,803	
	ウェブサイト運用費	300,000	254,615	45,385	
	功労賞	50,000	50,000	0	
	その他の事業費	10,000	0	10,000	
	事業費合計	1,370,000	1,258,633	111,367	
	人件費	2,450,000	2,400,000	50,000	
	通勤費	170,000	159,620	10,380	
	通信連絡費	110,000	105,669	4,331	
	事務費	80,000	44,639	35,361	
	賃借料	720,000	711,833	8,167	
	その他の管理費	70,000	68,492	1,508	登記費用
	管理費合計	3,600,000	3,490,253	109,747	
当期支出合計(C)	4,970,000	4,748,886	221,114		
当期収支差額(A)-(C)	-143,700	18,084	-161,784		
次期繰越金(B)-(C)	6,469,045	6,612,745	-143,700		

[差異] = [2024年度予算額] - [2023年度決算額]